

わが職場

仁尾興産株式会社は、その創立は大正八年十二月に創設された仁尾塩田株式会社に起源する歴史が長い会社です。

初代社長はその名も塩田忠佐衛門と称し本社正門内には銅像が安置されています。

大正十三年には五九万平米の入浜式塩田を所有し、その規模の大きさだけでは無く日本の製塩業全体にも大きく貢献する存在でありました。当時の塩田造成の写真を見ますと非常に人力による部分が多く、そのご苦労は計り知れないと感じ感服します。

以後製塩方法も幾度か変遷し設備もどんどん進化したましたが、昭和四七年の臨時処置法により塩業を廃止、現在の社名に商号を替えて今に至ります。事業内容は塩田時代の広大な敷地の活用と、培ったノウハウによる塩化マグネシウムの製造販売が主力です。その他にも割と海に関連するものが多い多角的な事業展開をしましたが、その内容

も変遷しております。今は仁尾産商として運営する車えびの養殖は、香川県唯一でありご存知の方も多いと思います。当社の主力生産物は豆腐の凝固剤であるニガリや凍結防止剤として有名ですが、その他工業製品や医薬品の原料添加剤としての用途が拡大されてきました。おかげさまで平成十九年には三豊市日本一名誉賞を授かったほどの全国的なシェアを誇る生産量です。

さて、わが社の安全衛生について報告させていただきます。光栄なことに優良事業場としての香川労働基準協会総会における三豊支部長賞・香川産業安全衛生大会での優良賞を賜り、また優良安全運転管理事業所の受賞も受けました。

これらもまた、先の歴史と同じく諸先輩方から連綿と受け継がれた結果であることと感謝しております。現社員全員の協力のおかげです。

しかし実際に安全衛生に携わってみますと他社の安全衛生管理体制には非常に感心させられるものが多く、当社の現状はとも完成形とは言えずまだまだ前進させなければ

ならない部分が多いと感じます。結果である表彰賞は確かな財産として、この名誉をずっと引き継いで行くのは私たちの使命と思います。その点、非常に助かっているのは社内の人間関係が非常に良好であることと、安全衛生委員会・各委員の活動と提案に対してはトップを始め各部門役職を問わず非常に協力的であることです。しかし、これからは世代交代がより進んでいくことで危惧されるがあります。それは山や海が主な遊び場だったり、仕事でも危ない思いを多く経験してきた先輩達と、室内ゲームや施設内で遊ぶ機会が多かったであろう若手たちの安全センスの違いです。現場の安全はやはり上手な「カミナリ親父」が不在化し、その結果安全管理や安全意识が衰退したということが起きないよう、今後も常に内容を見直し協力体制を維持出来るような、活動の継続をしなければと思います。

仁尾興産株式会社

管理部管理課

江川 和 徳